

平成26年度 部局自己評価報告書（教育情報学教育部・研究部）

Ⅲ 部局別評価指標**1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果****※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容**

1. 部局ビジョンの重点戦略・展開施策

(1) 「教育学」を基礎とした「教育情報学」に関する教育・研究の再構築

これまでの「教育学」と「情報工学」双方に対し対等な比重をかけた教育から、「教育学」の基礎を体系的に学んだうえで最先端のICTをより柔軟に様々な現場で活用できる人材育成を目標とした教育カリキュラムへの変更を視野に入れ、教育学研究科との統合を進めている。具体的には、平成28年4月の統合に向け、ワーキンググループを設置し、統合に関する検討を進めている。

(2) 「学び」の質を向上させるための「ICT活用教育」に関する教育・研究の再構築

再構築のための作業を進めている。具体的には、教育学研究科との統合ワーキンググループを中心としてカリキュラム再編作業を進めている。9月にカリキュラム再編案を完成させる予定である。

2. 中期計画 I-1-(1)-1、中期計画 I-1-(2)-1、中期計画 I-1-(2)-3

(1) web ベースの学生授業評価システムを構築・運用し、その結果に基づいたふり返し作業として授業実践記録を全教員が作成した。これにより、大学院教育が学生の視点から適切であったかどうかの点検・改善が可能となった。

(2) 部局の専任教員が担当する全ての講義（100%）において ISTU の活用を実施した。また、全学生と全教員が参加する研究発表会を ISTU にコンテンツ化し、ISTU を活用した研究交流・研究指導活動のふり返しを実施した。

3. 中期計画 I-2-(1) 「教育と情報に関する基礎的な優れた研究成果を、術誌、学術書、国際・国内会議等に公表する。」

教育と情報に関する研究、教育と情報を融合させた現場密着型の研究を推進してきた。それらの研究の成果を学術誌、学術書、国際・国内会議等で多数公表してきた。具体的には「A System for Reflective Learning using iPads for Real-time Event Bookmarking into Simultaneously Recorded Videos」「手書きパッドを用いた被災地における NIE 実践授業の検討」「The investigation of viewpoint movement during the snowboard carved turn」「The Effect on Utilizing CG to Learn Dance Autonomously and Mutually」「A Study on the Assignments and Factors Affecting the Qualitative Digital Divide of People with Disabilities in South Korea」「重度知的障害を伴う自閉症高等部生徒への構音指導について—構音練習用デジタル教材を用いた1症例についての検討—」等である。

4. 中期計画 I-3-(1) 「情報技術を活用して産官学連携プログラムの充実を図る。」

(1) 授業改善等での活用を主たる目的とする教育情報記録提示システムを企業と連携して開発・商品化し、継続販売している。

・(株)内田洋行、(株)フォトロン (クリッカーと映像記録の統合によるコミュニケーション学習支援システム)

(2) IC レコーダー内蔵デジタルペンの教育現場での有効活用に関する調査研究を進めている。

・(株)学研ホールディングス (IC レコーダー内蔵のデジタルペンの使用が学習者の日常の学びに与える影響の調査研究)

(3) 手書きパッドによる授業振り返り支援技術の開発を進めている。